

リハビリテーション治療学演習

[演習] 第1学年 前期 選択 2単位

《担当者名》○澤田篤史 (as-51@hoku-iryo-u.ac.jp)

【概要】

今後、リハビリテーション医療における対象者の高齢化および障害の重複化を展望する際に重要となる内部障害に対するリハビリテーションの介入の際の効果的アプローチおよびリハビリテーション提供システムの構築・マネジメントに関わるリハビリテーション実践の開発に関する研究方法を探求する。リハビリテーション治療学特講Ⅰにて学修した、国内外の呼吸不全および心不全のリハビリテーションに関する基礎的あるいは臨床的文獻レビューを通して、最新の知見を調査し、臨床にて要求される今後の研究の方向性を展望する。

【学修目標】

- ・内部障害例に対する臨床課題について効果的な介入法に関して文獻レビューを行うことができる。
- ・内部障害例に対するリハビリテーションについて効果的な介入法に関してシステムティックな文獻レビューを行うことができる。
- ・自らが取り組む研究テーマに関するシステムティックな文獻レビューを行うことができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	内部障害例に対する臨床課題について効果的な介入法に関して文獻レビューを行うための説明を行う。	澤田篤史
2~5	内部障害例に対するリハビリテーションについてシステムティックな文獻調査とレビュー	内部障害例に対するリハビリテーションについて、有効な評価方法および効果的な介入法に関してシステムティックな文獻レビューを行う。 自らが取り組む研究テーマに関してシステムティックな文獻レビューを行う。	澤田篤史

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題およびプレゼンテーション（50%）、討議状況（50%）で総合評価する。

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

講義の中で適宜紹介していく。

【学修の準備】

参考文献以外にも関連分野の文献等を各自調査し学習すること。（各講義につき160分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

リハビリテーション領域において、学際的視点を活かしながら、先進的かつ独創的な研究を自律的に遂行するための高度な学識と研究能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士後期課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

澤田篤史（理学療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

理学療法士としての病院や研究施設における実務経験をもとに講義・演習を行う。